

は余り認められない又或低比重以下では枯死率は急激に大きくなるという。更にテングサ類の成形成過程に於て胞子が発芽し成長点を生じた発芽体の其の後の發育に就いてマクサとオバクサにより調べた結果、前者は直立型と匍匐型の二型をとり、直立型では始めの発芽枝の基部から出る側生芽が上向きこれが主枝に生長し、匍匐型では側生芽は匍匐枝に発達し、それから何本かの直立芽が出て主枝に成長する、而して後者の方は匍匐型のみが認められたという。この際即ち発芽及び成長の場合の阻害要因としては砂泥の堆積や微小藻類の被覆又腹足類の食害が挙げられる。

栄養繁殖に関して。著者が新たに提唱したものに分生体がある。従来テングサ類の栄養繁殖として普通に匍匐枝からの新芽の発出及び体の一部の切口から多数の枝部又は根部を再生することは知られていたが、著者はマクサに於て栄養繁殖能力を認めたのでその分生現象を実験的にまとめた。即ち材料を繩等で石面に固定してフィールドで実験した結果石面に接触した部分特に中枝部の先端附近から束状假根を出し、これを基として若い枝部が発生した即ち分生体が形成された訳である。又斯かる分生繁殖と本質的に変らないものに前述の直立枝が匍匐枝化して新直立枝を発出して繁殖する現象をテングサ類のある種でみている。これは自然界で極く普通に行われている栄養繁殖ではないかと想像している。

研究結果のテングサ類増産上への応用に関して。採苗方法には胞子放出、附着に関する知見；育成上の管理、増産事業の効果判定、被害調査、播種時期の決定、新漁場の探索等には発芽・成長の過程とそれに及ぼす水温・比重の影響及び發育阻害要因等の知見；採苗、移植及び育成事業等には分生繁殖法の発見等々が寄与する処であると著者は結んでいる。

寒天材料としてテングサ類は我国海藻類中極めて重要な位置を占めその原藻の生産高は現今世界の7割、製品は8割に及ぶというが更にその増産は急務であり、著者の増産に関する基礎的研究の論文は極めて意義深いことと思はれる。特に水産関係従事者各位に裨益する処大と考えられる。

(舟橋説往一北海道大学理学部植物学教室)

学会録事

日本藻類學會第3回總會開催

去る10月12日より14日迄広島大学で日本植物学会大会が開催されたのを機にその前日11日に岡山大学理学部に於て本会總會が行われた。出席会員は34名でその他2,3の来会者があり盛會裡に終つたことは当日の世話役を引き受けられた猪野俊平博士や広瀬弘幸博士その他地元会員の方々の御尽力によるもので厚く御礼申し上げたい。

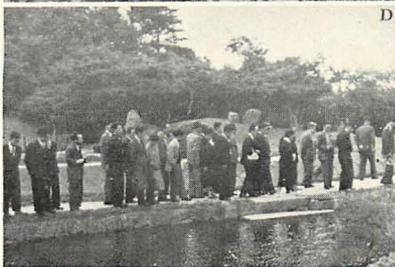
まぎ午前9時半山田会長の講演があり、今夏渡欧されてノールウェー国トロンドハイ

ム市に於て開かれた第二回国際海藻専門討議会に出席された時の様子や欧州各地のハーバリウム、大学、研究所或いは博物館などを歴訪された時の旅行談をスライドを使用して話された。予定されていた名誉会員田原正人博士の「ホンダワラの研究に関する思ひ出」と題する講演は同博士の御不快のため御出席出来ず中止となつたことは残念であつた。次いで10時半より総会が開かれた。当日の議長には地元の猪野俊平博士が選ばれた。まづ会長挨拶の後議事に入り川嶋幹事より昭和29年度の庶務、会計の報告と30年度の中間報告があり、次いで今年は役員任期満了につき会長改選が行われた。選出は従来通り無記名投票によつて行われその結果は次の様であつた。

山田幸男 31票、猪野俊平 2票、殖田三郎 1票、合計 34票

斯くして山田会長の留任に決定した。又來年度の総会は植物学会総会を機に札幌市で行うことに決定し最後に山田会長より最近国内や外国の各学会、博物館等より会誌の寄贈、交換を希望して来ているので今後この問題はその処理を会長に一任させてほしい（勿論会誌の残部が僅少となつた場合は総会に凶る）との発言があり全会異議なくこれを諒承して総会の幕を閉じた。

11時より大型バスに乗つてエクスカーションに出発した。このバスはつい数日前に購入したものとかで乗心地満点だつた。ガイドは案内ガールの外に猪野博士が要所要所でマイクを持ち、主として植物学的立場から案内ガールの補足説明をされた。先ず市内随一の名所後樂園で昼食の後一木一草又は一石そして築山の起伏一つに至るまでそれぞれ意味があると言う園内を一巡してまず驚嘆、次に岡山を離れて豊作に頭を低くたれた黄金の波を左右に眺めながら倉敷市の大原美術館に至り泰西の名画や古美術品を見学、大原農業研究所の図書館に於ては厩大なベッファー文庫を見学し、更に車を駆つて今は一面田園と化した謡曲に名高い藤戸の渡りの故事を偲びつつ瀬戸内海に面する玉野市に到れば玉野海洋博物館あり、瀟洒な建物の水族館では呑気者の様なタコに戯れ、ハリイカやカブトガニの珍しい動物を観察し、又隣接する岡山大学臨海実験所では内海に産するホソエガサの珍種を分与して戴き、将又内海の風光を賞でて三度車上の人となり夕闇せまる倉敷街道を振舞いのウイスキーにのど自慢の美声を競い合いながら、無事半日の行程を終えて岡山大学に帰着した。かくて夜7時より玉野臨海実験所長、会員川口四郎氏の御招待による懇親会が同大学津島クラブに於て行われ和気藹々のうちに一日の予定を終えた。



寫眞説明： A, 大原美術館玄関に於ける記念撮影
B~E, エクスカーション (岡山市後楽園)